

令和4年11月27日（日）施行

第208回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解答

第1問

	借 方		貸 方	
	勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
1	当 座 預 金	2,800,000	資 本 金	2,800,000
2	立 替 金	60,000	現 金	60,000
3	前 受 金	100,000	売 上	460,000
	売 掛 金	406,000	仮 受 消 費 税	46,000
4	貸 倒 損 失	630,000	売 掛 金	630,000
5	有 価 証 券	114,000	普 通 預 金	114,000
6	損 益	455,000	繰 越 利 益 剰 余 金	455,000
7	給 料	381,000	所 得 税 預 り 金	47,000
			普 通 預 金	334,000

第2問

(ア)	期 首 負 債	¥ 261,000
(イ)	総 収 益	¥ 188,000
(ウ)	期 首 商 品 棚 卸 高	¥ 980,000
(エ)	純 売 上 高	¥ 7,698,000

第3問

< >の番号は伝票の No. を示す。

現 金		金	
7/13 (受 取 手 形) <28> [280,000]		7/19 (未 払 金) <35> [70,000]	
当 座 預 金			
		7/11 (買 掛 金) <22> [40,000]	
受 取 手 形			
		7/13 (現 金) <28> [280,000]	
買 掛 金			
7/11 (当 座 預 金) <22> [40,000]			
未 払 金			
7/19 (現 金) <35> [70,000]			

第4問

小 口 現 金 出 納 帳

受 入	令 4 和 年		摘 要	支 払	内 訳				残 高
					通 信 費	交 通 費	消 耗 品 費	雑 費	
40,000	8	1	前 週 繰 越						40,000
		〃	ハ ガ キ 代	1,890	1,890				38,110
		2	接待用飲み物代	1,510				1,510	36,600
		3	タクシー代	3,830		3,830			32,770
		4	筆記用具代	1,100			1,100		31,670
		5	インターネット通信料	2,980	2,980				28,690
			合 計	11,310	4,870	3,830	1,100	1,510	
11,310		5	本 日 補 給						40,000
		〃	次 週 繰 越	40,000					
51,310				51,310					
40,000	8	8	前 週 繰 越						40,000

第5問

精 算 表

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	972,000						972,000	
現 金 過 不 足	1,100			1,100				
当 座 預 金	1,127,000						1,127,000	
普 通 預 金	3,620,000						3,620,000	
売 掛 金	205,000						205,000	
貸 倒 引 当 金		2,100		2,000				4,100
繰 越 商 品	154,000		138,000	154,000			138,000	
貸 付 金	600,000						600,000	
備 品	328,000			82,000			246,000	
買 掛 金		412,000						412,000
借 入 金		200,000						200,000
資 本 金		5,000,000						5,000,000
繰越利益剰余金		1,287,000						1,287,000
売 上		9,791,000				9,791,000		
受 取 利 息		36,000				36,000		
仕 入	6,503,000		154,000	138,000	6,519,000			
給 料	2,547,000				2,547,000			
広 告 費	60,000				60,000			
交 通 費	227,000				227,000			
通 信 費	84,000		4,000		88,000			
消 耗 品 費	44,000				44,000			
保 険 料	144,000			24,000	120,000			
水 道 光 熱 費	97,000				97,000			
租 税 公 課	7,000				7,000			
支 払 利 息	8,000				8,000			
	16,728,100	16,728,100						
雑 損			1,100		1,100			
貸倒引当金繰入			2,000		2,000			
減 価 償 却 費			82,000		82,000			
未 払 通 信 費				4,000				4,000
前 払 保 険 料			24,000				24,000	
当 期 純 利 益					24,900			24,900
			405,100	405,100	9,827,000	9,827,000	6,932,000	6,932,000

令和4年11月27日（日）施行

第208回 全経簿記能力検定試験 3級 商業簿記 解説

第1問

1. 株式会社設立時の処理

株式会社を設立するためには、株式を発行し資金を調達する。

株式会社設立に際し、株式を発行した場合、資本金勘定を用いて純資産の増加として処理をする。

資本金の金額 株式 800 株 × @ ¥3,500 = ¥2,800,000

2. 立て替え時の処理

従業員個人が負担すべき物品の購入代金を会社が立て替えた場合、立替金勘定を用いて資産の増加として処理をする。

* 従業員から立替分を回収した場合は、立替金勘定の減少として処理をする。

3. 商品売買・税抜方式の処理

商品を販売し、代金 ¥506,000 のうち ¥100,000 は以前受け取っていた内金を充当とあるので、前受金勘定を用いて負債の減少として処理をする。残額 ¥406,000 は掛けとしたとあるので、売掛金勘定を用いて資産の増加として処理をする。

なお、消費税は税抜方式で処理するので、商品の本体価格 ¥460,000 と消費税額 ¥46,000 を分けて処理をする。商品の本体価格 ¥460,000 は売上勘定を用いて収益の発生として処理をし、消費税額 ¥46,000 は仮受消費税勘定を用いて負債の増加として処理をする。

商品の本体価格 商品 ¥506,000 - ¥46,000 (うち消費税額) = ¥460,000

4. 貸倒れの処理

当期に生じた売掛金 ¥630,000 の回収不能については、貸倒損失勘定を用いて費用の発生として処理をする。回収不能になった売掛金については売掛金勘定の減少として貸方に記入する。

5. 株式購入時の処理

株式を購入した場合、有価証券勘定を用いて資産の増加として処理をする。株式購入時の証券会社に対する購入手数料 ¥2,000 は付随費用として有価証券勘定の取得原価に含める。

富山商事株式会社の株式 取得原価 = @ ¥560 × 200 株 + ¥2,000 = ¥114,000

代金は、当社の普通預金口座から支払ったとあるので、普通預金勘定を用いて資産の減少として処理をする。

6. 決算振替仕訳

当期決算において、当期純利益が算定された場合は、損益勘定の貸方から繰越利益剰余勘定の貸方へ振り替える処理をする。当期純損失が算定された場合は、損益勘定の借方から繰越利益剰余金勘定の借方へ振り替える処理をする。

7. 給料の支払いと所得税預り金の処理

給料¥381,000を支払う際は、給料勘定を用いて費用の発生として処理をし、所得税の源泉徴収額¥47,000は、後日納付する義務があるため、所得税預り金勘定を用いて負債の増加として処理をする。給料は、その源泉徴収額¥47,000を差し引いた¥334,000を普通預金口座から口座振替で支払ったので、普通預金勘定を用いて資産の減少として処理をする。

$$\text{普通預金口座から口座振替で支払った額} \quad ¥381,000 - ¥47,000 = ¥334,000$$

源泉徴収とは、会社が従業員へ給料を支払う際に本来従業員自身が納める所得税額を従業員から一時的に預かり、後日まとめて納付する方法である。

第2問

各金額の算定 求めることのできる空欄から求めていく。

①期首負債（ア）

財産法により

$$\text{期首純資産} + \text{当期純利益} = \text{期末純資産}$$

$$\text{期首純資産} + 75,000 \text{ 円} = 496,000 \text{ 円}$$

$$\text{期首純資産} = 496,000 \text{ 円} - 75,000 \text{ 円}$$

$$\text{期首純資産} = 421,000 \text{ 円}$$

貸借対照表等式により

$$\text{期首負債（ア）} + \text{期首純資産} = \text{期首資産}$$

$$\text{期首負債（ア）} + 421,000 \text{ 円} = 682,000$$

$$\text{期首負債（ア）} = 682,000 \text{ 円} - 421,000 \text{ 円}$$

$$\text{期首負債（ア）} = \underline{261,000 \text{ 円}}$$

①総収益（イ）

損益計算書等式により

$$\text{総費用} + \text{当期純利益} = \text{総収益（イ）}$$

$$113,000 \text{ 円} + 75,000 \text{ 円} = \text{総収益（イ）}$$

$$\text{総収益（イ）} = \underline{188,000 \text{ 円}}$$

②期首商品棚卸高（ウ）

$$\text{期首商品棚卸高（ウ）} + \text{純仕入高} - \text{期末商品棚卸高} = \text{売上原価}$$

$$\text{期首商品棚卸高（ウ）} + 5,899,000 \text{ 円} - 721,000 \text{ 円} = 6,158,000 \text{ 円}$$

$$\text{期首商品棚卸高（ウ）} = 6,158,000 \text{ 円} + 721,000 \text{ 円} - 5,899,000 \text{ 円}$$

$$\text{期首商品棚卸高（ウ）} = \underline{980,000 \text{ 円}}$$

②純売上高（エ）

売上総利益＝純売上高（エ）－売上原価

1,540,000 円＝純売上高（エ）－6,158,000 円

純売上高（エ）＝6,158,000 円＋1,540,000 円

純売上高（エ）＝7,698,000 円

第3問

各伝票について取引の仕訳をする。

令和4年7月11日 振替伝票 No. 22

(借) 買掛金	40,000	(貸) 当座預金	40,000
---------	--------	----------	--------

令和4年7月13日 入金伝票 No. 28

(借) 現金	280,000	(貸) 受取手形	280,000
--------	---------	----------	---------

令和4年7月19日 出金伝票 No. 35

(借) 未払金	70,000	(貸) 現金	70,000
---------	--------	--------	--------

以上の仕訳を各勘定口座（Tフォーム）へ転記する。

第4問

支払欄・内訳欄に記入する。

8月 1日	(月)	ハガキ代	¥1,890	→	通信費
2日	(火)	接待用飲み物代	¥1,510	→	雑費
3日	(水)	タクシー代	¥3,830	→	交通費
4日	(木)	筆記用具代	¥1,100	→	消耗品
			費		
5日	(金)	インターネット通信料	¥2,980	→	通信費

定額資金前渡制（インプレスト・システム）により毎週金曜日の終業時にその週の支払いを報告し、資金の補給を受けているので、8月1日（月）～8月5日（金）までの上記支払額の合計¥11,310を「5日 本日補給」の行の受入欄に記入し、残高欄に¥40,000を記入する。5日の残高¥40,000は、翌週の繰り越し分となるので「次週繰越」の行の支払欄に¥40,000を記入する。受入欄と支払欄の合計は、¥51,310を記入する。

8月8日 前週繰越の行の受入欄に¥40,000、残高欄に¥40,000を記入する。

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は【精算表・残高試算表】繰越商品勘定の借方残高より¥154,000

(借) 仕 入	154,000	(貸) 繰 越 商 品	154,000
繰 越 商 品	138,000	仕 入	138,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金残高は【精算表・残高試算表】より¥205,000

売掛金残高の2.0%の貸倒れを見積もるので

引当金設定の計算式 $¥205,000 \times 2.0\% = ¥4,100$

差額補充法により処理するので

繰入額の計算 $¥4,100 - ¥2,100$ (【精算表・残高試算表】貸倒引当金残高) $= ¥2,000$

(借) 貸倒引当金繰入	2,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	2,000
-------------	-------	---------------	-------

3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は、問題文より¥410,000

耐用年数5年、残存価額はゼロ

年間の減価償却費の計算 $¥410,000 \div 5 \text{年} = ¥82,000$

*直接法により記帳するので、備品勘定から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	82,000	(貸) 備 品	82,000
---------------	--------	---------	--------

4. 現金過不足の処理

現金過不足の残高は、原因不明につき、雑損として処理するので、現金過不足勘定の借方残高から雑損勘定へ振り替える処理をする。

(借) 雑 損	1,100	(貸) 現 金 過 不 足	1,100
---------	-------	---------------	-------

5. 通信費の未払い

当期の決算時において未払いである通信費¥4,000は当期に属する費用であるため、当期の費用として見越計上の処理をする。

(借) 通 信 費	4,000	(貸) 未 払 通 信 費	4,000
-----------	-------	---------------	-------

6. 保険料の前払い

支払い済みの保険料のうち¥24,000は、次期に属する費用であるため、次期の費用として繰延計上の処理をする。

(借) 前 払 保 険 料	24,000	(貸) 保 険 料	24,000
---------------	--------	-----------	--------